

みなさんお元気ですか。

2017年4月の道場での様子をお便りします。ご覧下さいませ。



4月27日UCA大学での護身術講座終了。開始当初は、16名の生徒が受講した。途中試験やその他の用事で生徒数は数名減ったが、出席率60%を合格ラインとして、13名の生徒に終了証書を授与した。受講者は、大学の単位数として認められるとのこと。今回の女性のための護身術授業は、私にとっては初めての経験だった。ニカラグアでの犯罪ビデオなどを見ながら、どのような方法が効果的か、と色々と考えた。相手の暴力に対して、攻撃的に抑えつけるやり方は、極力さげたいと思った。映画などによく出てくるカッコよくて、強い女性が悪役を叩きつけるようなことは、不可能と思っている。約2か月のこのコースを終了して、今回の授業が生徒にとってどれだけ役立つかわからないが、生徒全員が安全にこの国で暮らしていってくれることを願う。



4月28日、合気道昇級審査を実施。この日の受審者は、AlexiaとNorvinだ。この二人は、当道場長のAnibal先生が別の道場（残心道場）で指導している生徒だ。この二人は、去年の10月に5級の審査を受け、今月に4級を受けた。審査していて、この二人は着実に練習の成果が上がっていると感じた。無駄な動きが段々と亡くなってきたように思える。しかし、座り技の膝行がたどたどしい。残心道場でもあまり座り技をやってないように思えた。実は、この道場でも座り技の稽古をあまりやってない。私もどうも立ち技を優先して、座り技を後回しにしてしまう。これは、私の今後の課題でもある。座り技、半身半立ちなど審査項目にあるにも関わらず、実際は、あまり稽古をしなくて審査のときだけはやるやり方は、改めなければならない。



4月29日、武士道道場で、Eduardo Castillo（3級）の昇級審査を実施した。この日は、Anibal Lopez 先生も審査に来た。彼は、非常に素直でまじめだ。そして、他の生徒の面倒もよく見る。今回この道場では、もう二人が受験した。その二人とも Eduardo が受けを取った。彼の技は正解である。私の教えた捌きをよく理解している。また、受けも上手い。稽古以外にも私と他の生徒たちを食事に誘ってくれた。また、海に連れって行ってくれたのも、この Eduardo さんだ。この道場の道場長は、Hector Montoya さんだけれども、この道場もなかなか入門者が来ない。受験者3人だけが仲良しで、他の人と交わらない感じがする。この道場は、エアロビクスクラス、テコンドークラス、それに筋力トレーニングクラスがある。エアロビクスクラスは結構な人が来ているらしい。この道場は、他の住宅地から区別された小さなコミュニティのなかに存在しているので、生徒数は増えないのかもしれない。



4月30日、Anibal Lopez 道場長が私に相談があると言って、Jose Gomez を通訳として家に来た。彼は、質問事項をノートにまとめ、そのメモ書きを読みながら質問した。彼は、道場運営に悩んでいるようで、私の意見を聞きたかったようだ。質問内容は、自分と生徒との間の不和だった。自分がしたいと思う事を幹部会で相談しても他の幹部は賛成してくれない。また、幹部以外の生徒も私の言うことを聞かない、などだった。実は、私は別の日に他の生徒が道場長は威張っているだけで、何もしない。彼の言っていることが理解できないなど、生徒からの愚痴も聞いていた。そして、スペイン語が相変わらずできない私も道場長とは会話ができなくて、彼が日ごろどのように考えているのか疑問が溜まっていた。今回、お互いに率直な意見を交換して、道場の運営や生徒との印象については、同じような思い入れがあることが分かった。道場長は、リーダーとして不適か、私の後継者は誰が適任かと最近考えるようになったが、この道場長なら任せて安心だと思った。

